

第21回亀倉雄策賞受賞記念
色部義昭展

目印と矢印



第21回亀倉雄策賞受賞記念 色部義昭展

目印と矢印

2019年4月4日(木)から5月21日(火) 11時から19時 クリエイションギャラリーG8

入場料：無料 休館日：日曜・祝日、4月28日(日)から5月6日(月)

主催：クリエイションギャラリーG8 共催：公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会 亀倉雄策賞事務局

協力：山田写真製版所 会場構成：日本デザインセンター色部デザイン研究所

「亀倉雄策」とは時折り一方的な接点がある。日本デザインセンター 50周年史のデザインを担当したときに、創立当時を知るOBから創立メンバーであった亀倉のエピソードを聞く機会があった。数年前、雑誌『Pen』のグラフィックデザイン特集で亀倉について語る機会があり、以前に読んだ著書『離陸 着陸』を読み返しながら、数多くの名作を残したデザイナーとしての側面だけでなく、行動派としての側面を知ることになった。最近では、JAGDA広報委員会の活動の中で、亀倉がJAGDA創立当初に会員を募るために書いた、様々な熱い書面を目にして心動かされた。そうした中で、一貫してグラフィックデザイナーという職能を社会に開いていくために行動し続けた情熱的な姿が強く印象に残り、いつか自分も亀倉の意思を少しでも継承できるようなデザイナーになりたいと思うようになった。

今回の受賞作品となった「Osaka Metro」のCI計画は、対象が国際的な大都市を支えるインフラであることから、初めて訪れる人にも明快に機能する目印であることが求められた。一方で、一つの目印が街中に展開される量について想像し、都市の風景を形成する環境デザインの要件とも捉えることにした。角度を変えると大阪の頭文字“O”になる立体的なロゴ“M”は、“Osaka”の“Metro”というテーマでしか実現し得ない、特殊な造形で応えたいという思いから生まれたアイデアである。列車内や駅構内のスクリーンに流すためのモーションロゴを作ったのは、公共的なデザインに対して多くの説明が求められる時代にあって、できるだけ言葉を介さずにビジュアルのみでデザインをわかりやすく説いていく試みでもあった。その成果かどうかははっきりはわからないが、知りうる情報の限りにおいて、概ね好意的に受け入れていただけたと思っている。

社会との接点を大きく感じ、手応えも感じられたプロジェクトであったが、それに対して嬉しい受賞の知らせがいつか来た。この新しい「亀倉雄策」との接点に喜びを噛み締めながら、今後も自分なりにグラフィックデザイナーの職能を追求し続けていきたいと思う。

色部義昭

亀倉雄策賞について

1997年に急逝した亀倉雄策の生前の業績をたたえ、グラフィックデザイン界の発展に寄与することを目的として1999年、亀倉雄策賞は創設されました。この賞の運営と選考は、公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）が行い、毎年、年鑑『Graphic Design in Japan』出品作品の中から、最も優れた作品に対して贈られます。

色部義昭 Yoshiaki Irobe

1974年千葉県生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了。日本デザインセンター取締役。同社内にて色部デザイン研究所を主宰。東京藝術大学非常勤講師。グラフィックデザインをベースに、平面から立体、空間、映像まで幅広くデザインを展開。近年の主な仕事に市原湖畔美術館や国立公園、須賀川市民交流センター tetteのブランディング、天理駅前広場 Cofufunのサイン計画、Liquitexやnaturaglaceのパッケージデザインなどがある。グッドデザイン賞、SDA、JAGDA、東京ADC、D&AD、One Show Designなど国内外のデザイン賞を受賞。AGI（国際グラフィック連盟）、東京ADC、JAGDA会員。http://irobe.ndc.co.jp/

オープニングパーティー 2019年4月4日(木) 19時から20時30分

第296回クリエイティブサロン 「矢印のデザイン」

2019年4月15日(月) 19時10分から20時40分 出演：木住野彰悟、原田祐馬、色部義昭

第297回クリエイティブサロン 「目印のデザイン」

2019年4月24日(水) 19時10分から20時40分 出演：佐藤卓、色部義昭

入場無料、要予約。ご予約はギャラリー WEBサイト<http://rec.recruit.co.jp/>まで

